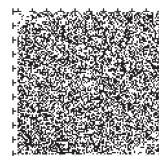


人々が集い、
にぎわいのある快適なまち

基本目標 6



都市基盤



政策6-1 鉄道駅を中心とした魅力あるまちをつくる

施策6-1-1 魅力とにぎわいのある中心市街地の創出

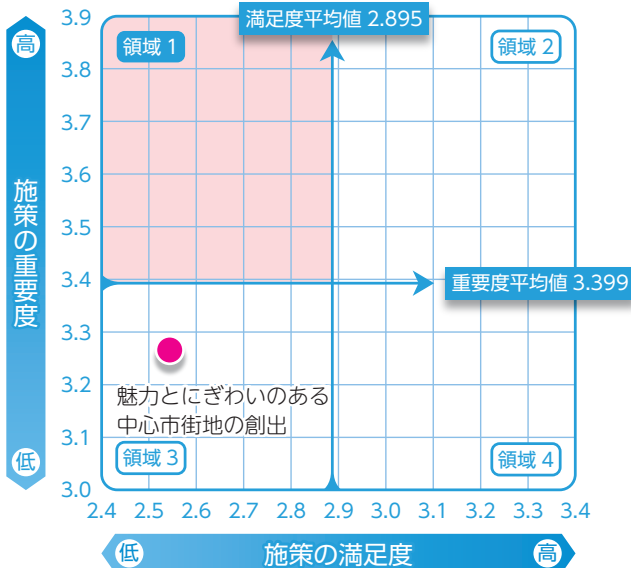
施策の目的

春日部駅周辺が拠点性の高い快適な中心市街地になること。

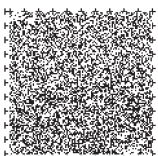
現状と課題

- ①東武スカイツリーラインおよび東武アーバンパークラインは、鉄道交通網として大きな役割を果たしていますが、一方で、この2路線が交差する春日部駅周辺では、鉄道により市街地が東西に分断され、さらに、開かずの踏切などによりスムーズに回遊できないため、市民生活や商業活動の阻害要因ともなっています。これらの課題を解決するためには、春日部駅付近連続立体交差事業の推進が必要不可欠です。
- ②県東部地域における中核都市としての拠点性の向上を図るためには、連続立体交差事業を契機とした、春日部駅周辺における魅力とにぎわいのあるまちづくりが必要です。このため、今後は、地区の特性に応じたまちづくりを行うとともに建物の更新を進め、分散している商業核などを結ぶ回遊軸を整備する必要があります。さらに、駅周辺のバリアフリー化などを通じ人にやさしい歩行空間の確保を推進し、だれもが安全・安心に中心市街地全体を回遊できるまちづくりが必要です。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



春日部駅東口駅前広場イメージ



施策における取組

(1) 春日部駅付近連続立体交差事業の推進

- ◆引き続き、埼玉県、東武鉄道、市の3者においてさらなる連携強化を図り、春日部駅付近連続立体交差事業を進めます。また、高架化による開かずの踏切対策を行います。
- ◆鉄道高架工事期間中の駅東西の通行ルートを確認します。
- ◆春日部駅については、東西自由通路と一体となった駅施設のバリアフリー化を促進します。

(2) 中心市街地まちづくりの推進

- ◆駅前広場、駅前通り、市役所通り（西口環境整備）などの再整備、中央町第1公園の整備を推進します。また、都市計画道路（中央通り線、春日部駅東西連絡道路、袋陣屋線（県））の整備を進め、あわせて駅と複数の商業核、商店街をつなぐ歩行者動線を形成します。
- ◆歩行者・自転車を優先した、安全で快適な道路交通ネットワークの整備を進めます。
- ◆駅周辺の安全性や利便性の向上を図るため、バリアフリー化の整備を推進します。
- ◆高架下空間もまちの街区の1つと位置づけ、回遊性の向上が見込まれるよう連絡路などを配置するとともに、商業・業務施設・公益利便施設などの導入を推進します。
- ◆民間事業者などと連携を図りながら、空き店舗の活用や地区の特性に応じた都市基盤整備などを行うことにより、商業を中心とした機能の集約を誘導し、駅前商業核と都市型住宅ゾーンの形成を図ります。また、建物の共同化、不燃化の促進、あわせて主要な都市基盤施設の整備を推進します。
- ◆粕壁宿、大落古利根川、彫刻などの地域資源を有効に活用し、歴史・文化を感じる街並みの形成を図るとともに、散策を楽しめる歩行空間を創出します。

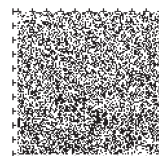
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
春日部駅周辺は、快適で便利だと思う市民の割合	40.2%	51.6%	市民意識調査より、市民の意識を測る指標です。目標値は、現状値より10ポイント程度増加することを目指し設定します。
「魅力とにぎわいのある中心市街地の創出」満足度スコア	2.536	2.663	市民意識調査より、市民の意識を測る指標です。目標値は、現状値より過去の最大値に増加することを目指し設定します。

SDGs達成に向け市民・地域ができること

まちづくりに参加することで、魅力とにぎわいのある中心市街地の創出に貢献する。

関連計画

春日部市中心市街地まちづくり計画、春日部市中心市街地バリアフリー計画



政策6-1 鉄道駅を中心とした魅力あるまちをつくる

施策6-1-2 鉄道駅周辺の更新・再生

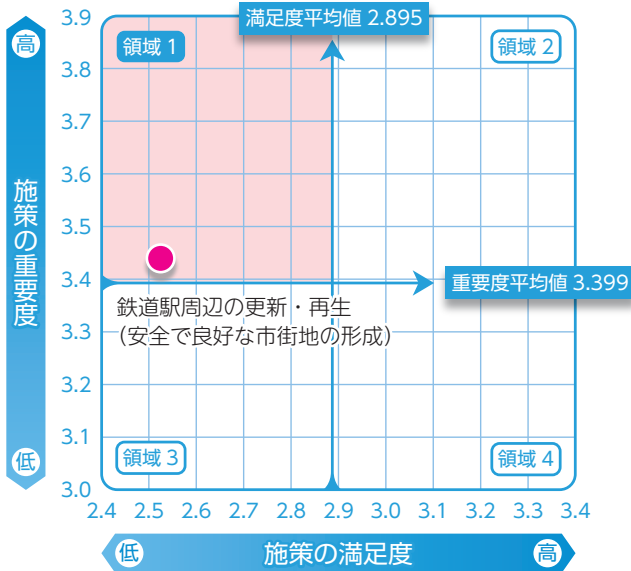
施策の目的

鉄道駅周辺の安全性や利便性を高め、人々が集まるまちになること。

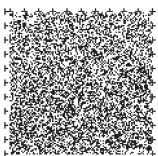
現状と課題

- ①人口減少や少子高齢化などに伴う今後の社会情勢の変化に対応し、持続可能な都市経営を図るためには、駅を中心とした集約型のまちづくりへの転換を図り、安全で利便性の高い駅を中心とした新たなまちづくりが必要です。また、駅周辺のバリアフリー化を通じ、人にやさしい歩行空間の確保を推進し、だれもが安心・安全に回遊できるまちづくりが必要です。
- ②再生される既存ストック周辺における道路交通環境などの整備のほか、市内各駅の周辺では、地域特性に応じた効果的な土地利用や施設などの誘導促進が不可欠であり、さらなるまちの魅力向上やにぎわい創出に向けた、生活利便施設の立地誘導などが必要です。
- ③地域の拠点としての魅力と利便性の向上を図るため、鉄道駅については、事業者との連携のもと事業を推進することが重要です。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



豊春駅東口駅前広場整備工事後のロータリー



施策における取組

(1) 既存ストック再生への支援促進

- ◆再生される既存ストック周辺における安全性・利便性の向上を図るため、道路交通環境などの整備を推進します。
- ◆駅周辺の安全性や利便性の向上を図るため、バリアフリー化の整備を推進します。

(2) 駅周辺への効果的な土地利用と誘導促進

- ◆駅利用者の安全性の向上と、駅周辺への生活利便施設の立地誘導を図るため、駅前広場やアクセス道路などの都市基盤整備を推進します。
- ◆民間事業者などと連携を図りながら、空き店舗を活用した生活利便施設の立地誘導を促進するなど、地域生活の利便性や快適性の向上に資する商業環境の形成を図ります。
- ◆駅周辺における生活利便施設の立地誘導に合わせ、市内外から人々を呼び寄せ定住化を図るため、北春日部駅周辺などにおける住環境の基盤整備を推進します。

(3) 地域の中心となる駅周辺まちづくりの推進

- ◆地域の顔である駅の魅力向上を図るため、鉄道事業者との協力体制を強化します。

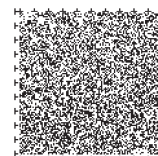
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
安全で良好な市街地の形成 (鉄道駅周辺の更新・再生) に満足している市民の割合	51.9%	60.7%	市民意識調査より、市民の満足度を測る指標です。目標値は、H 28 年度の水準まで増加することを目指し設定します。
鉄道駅周辺の バリアフリー化率	38.5%	84.6%	駅周辺のバリアフリー化の進捗を測る指標です。駅前広場における横断歩道部の段差解消や視覚障害者誘導ブロック等の適切な設置など5か所の整備を目指し設定します。

SDGs 達成に向け市民・地域ができること

駅を利用する際は、駅周辺施設を積極的に利用し活性化に貢献する。

関連計画

春日部市都市計画マスタープラン



政策6-2 地域の特徴を生かした選ばれるまちをつくる

施策6-2-1 計画的な土地利用の推進

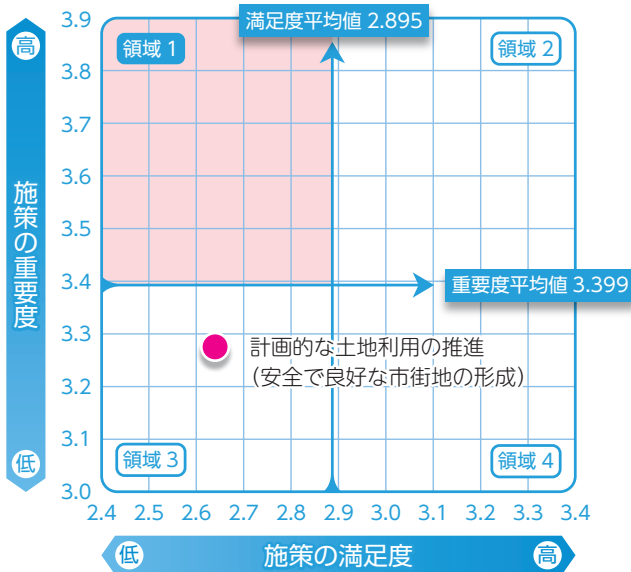
施策の目的

職と住居が近接した、コンパクトで魅力的なにぎわいのあるまちをつくること。

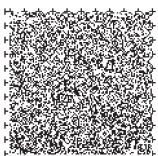
現状と課題

- ①国は、地域における各拠点を公共交通などで結んだ「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を推進しており、本市においても、鉄道駅を中心とした利便性が高く活力あるまちづくりの必要性があります。また、拡散型の都市構造から集約型の都市構造への転換を図るため、制度の適正な運用などにより、無秩序な開発や、郊外部への市街地の拡散を抑制する必要があります。
- ②本市では、北春日部駅周辺地区を地域拠点ゾーンとして位置づけており、土地区画整理事業の手法により利便性の高い住宅を中心とした住環境整備を推進する必要があります。また、西金野井第二土地区画整理事業については、事業開始より長期間が経過しているため、早期完了が求められています。さらに、既存市街地においては、西金野井第一土地区画整理事業が長期未着手であり、地区内の一部で都市基盤の整備などが立ち遅れていることから、地区計画などの新たな整備手法によるまちづくりを進める必要があります。
- ③国道4号、国道16号、国道4号バイパスなど広域幹線道路の沿道については、周辺環境との調和などを図りながら、交通利便性の高さを生かした、計画的な立地誘導を図ることが必要です。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



北春日部駅周辺地区土地区画整理事業
施行後の駅前通り



施策における取組

(1) 多極ネットワーク型コンパクトシティの形成

- ◆ 鉄道駅を中心に、利便性が高く日常生活に寄り添った魅力・活力ある拠点を形成し、既存ストックを活用した快適で安全な居住環境の維持・更新を図ります。
- ◆ 新たな雇用の創出に向けた取組や、各世代のニーズにマッチした戦略的な市街地の更新・再生と住み替え施策を推進します。
- ◆ 開発許可制度の運用により、都市計画などに定められた土地利用の適正性を確保するとともに、良好な宅地水準の確保と無秩序な開発の抑制を図ります。

(2) 快適な住環境整備の促進

- ◆ 北春日部駅周辺地区では、駅に近接する立地環境を生かし、子育て世代を中心としたあらゆる世代から選ばれる“まち”を目指し、利便性の高い住宅を中心とした住環境の整備を推進します。
- ◆ 西金野井第二土地区画整理事業については、事業に対する関係権利者との理解を深め、残事業を精査してコスト縮減に努め、早期完成を図ります。
- ◆ 長期未着手の西金野井第一土地区画整理事業については、地区計画などの新たな整備手法によるまちづくりへ転換を図ります。

(3) 交通の利便性に応じた産業集積土地利用の推進

- ◆ 庄和 I.C. 周辺については、産業集積土地利用を推進し、産業拠点の形成を図ります。
- ◆ 国道 4 号、国道 16 号などの広域幹線道路の沿道は、交通の利便性に相応した商業施設、流通施設などによる適切な沿道利用を図ります。また、国道 4 号バイパスおよび国道 4 号東埼玉道路の沿道となる赤沼・銚子口地区においては、新たな産業集積土地利用を推進します。
- ◆ 社会情勢の変化に伴う土地利用の動向を把握し、適切な用途地域の指定を推進します。

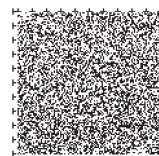
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
安全で良好な市街地の形成 (計画的な土地利用の推進) に満足している市民の割合	61.4%	71.4%	市民意識調査より、市民の満足度を測る指標です。目標値は、現状値より 10 ポイント増加することを目指し設定します。
庄和 I.C. 周辺 および広域幹線道路の 沿道における開発許可件数	5 件/年間	5 件/年間	開発許可件数より、土地利用の推進を測る指標です。目標値は、現状値の開発許可件数を維持することを目指し設定します。

SDGs 達成に向け市民・地域ができること

地区計画などにより形成された快適な住環境の維持に協力する。

関連計画

春日部市都市計画マスタープラン、春日部市立地適正化計画



政策6-2 地域の特徴を生かした選ばれるまちをつくる

施策6-2-2 あらゆる世代が住みやすい活力あるまちの創出

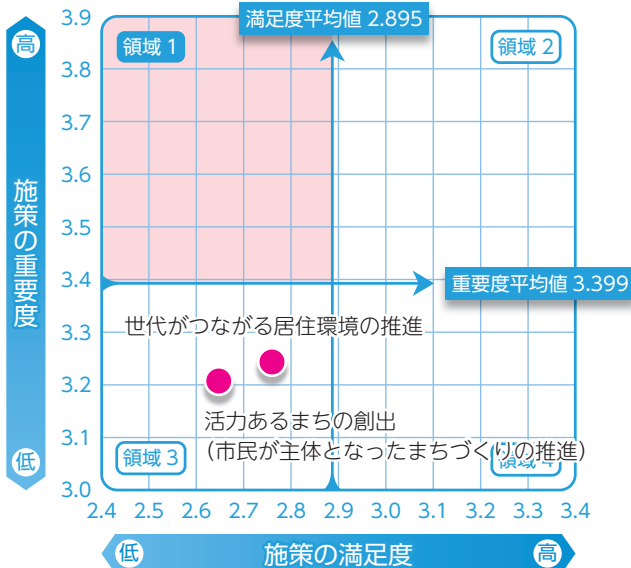
施策の目的

すべての世代がより良い住環境で安心して暮らせること。

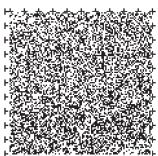
現状と課題

- ①全国的に、高度成長期などに整備された住宅団地の老朽化と居住者の高齢化が進んでいます。本市でも武里団地における居住者の高齢化が著しいことから、多様な世代のニーズに合った団地再生への取組が必要です。また、市内では管理不全な空き家等が目立ってきており、効果的な活用とともに良好な住環境を守るための適切な対応を図る必要があります。
- ②中古住宅などの既存ストックを活用して子育て世帯の住み替えや市内への転入を促すとともに、三世代がつながるまちづくりを進める必要があります。また、多様な居住ニーズに対応した公営住宅の供給や、耐震性の高い安全な住宅づくりなどを進める必要があります。
- ③住みやすく魅力ある都市づくりを進めるためには、さらに都市空間の質的充実を図っていく必要があります。また、地域特性に応じたまちづくりを推進することが不可欠であるため、今後も引き続き、地域の環境にふさわしい街並みの形成や良好な住環境の整備を図っていく必要があります。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



ふれあい家族住宅購入奨励事業



施策における取組

(1) 住宅ストックの利活用の推進

- ◆武里団地については、住民やUR都市機構、大学などと連携し、若い世代や子育て世代、高齢者などあらゆる世代が安心して住み続け、また、住みたくなる魅力的な団地を目指し、リノベーションの促進や、にぎわいと多世代交流の機会づくりを推進します。
- ◆状況の把握と適切な情報発信により、空き家の効果的な利活用を促進します。また、適正な管理が行われていない空き家などは、「春日部市空家等対策計画」に基づき対応します。

(2) 安全で快適な居住環境の整備

- ◆中古住宅などの既存ストックを活用し、子育てに適した手頃でゆとりある良質な住宅への住み替えや、市外に住む子育て世帯の市内回帰を促進します。また、「三世代がつながるまち」を目指し、子育て世代と親世代をつなげるためのサポートを推進するとともに、個人住宅のリフォームの助成についてルールづくりを行い、住環境の向上および定住促進を図ります。
- ◆民間賃貸住宅の借り上げ方式などにより、子育て世帯や高齢者世帯など多様な居住ニーズに対応した公営住宅の供給を推進するとともに、既存公営住宅の老朽化対策などを進めます。
- ◆地震災害から市民の生命・財産を守り、災害に強いまちづくりを推進するため、既存建築物の耐震化を推進するとともに、民間建築物の耐震診断および耐震改修を支援します。

(3) 良好な景観と地域に応じたまちづくりの促進

- ◆公共施設における魅力ある景観の創出や、広告物などの規制、街並みを保全・創出するためのルールづくりなどにより、良好な景観形成を進めます。
- ◆都市計画手続条例および景観条例を活用し住民主体による自主的な活動促進など、地域の特性に応じたまちづくりを支援します。

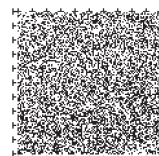
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
「世代がつながる居住環境の推進」に満足している市民の割合	67.5%	72.5%	市民意識調査より、市民の満足度を測る指標です。目標値は、現状値より5ポイント増加することを目指し設定します。
空き家リノベーションに関する申請件数	27件	32件	空き家リノベーションの実績により、空き家の利活用を測る指標です。目標値は、現状値より申請件数を、年1件ずつ増加することを目指し設定します。

SDGs達成に向け市民・地域ができること

良好な住環境を維持し、多世代にわたり住み続ける。

関連計画

春日部市空家等対策計画、春日部市建築物耐震改修促進計画、春日部市都市計画マスタープラン、春日部市景観計画、春日部市住生活基本計画



政策6-3 公共交通を便利に利用できるまちをつくる

施策6-3-1 公共交通ネットワークの形成

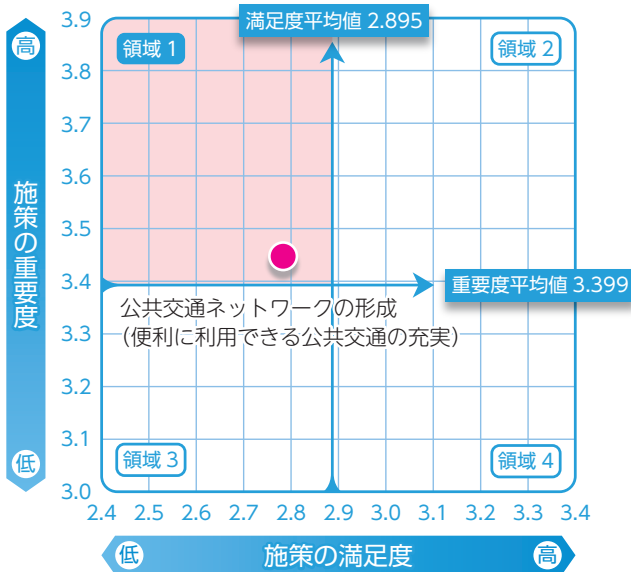
施策の目的

だれもが公共交通を便利に利用できること。

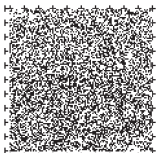
現状と課題

- ①人口減少と少子高齢化が進行する中、社会情勢の変化に対応した持続可能な公共交通ネットワークの形成が求められています。本市では市コミュニティバス「春バス」を運行し、鉄道や路線バスを補完していますが、今後も「春バス」は利用者の意向やニーズを踏まえた利便性向上を図るとともに、市民による利用を促進する必要があります。
- ②鉄道駅は市内に8駅あり、東武スカイツリーラインおよび東武アーバンパークラインが春日部駅で結節し、本市の公共交通ネットワークを形成する上で重要な役割を担っています。今後も沿線市町と連携し、輸送力増強や利便性向上について、働きかける必要があります。また、路線バスについても、利便性の維持・向上に向け、働きかける必要があります。
- ③多極ネットワーク型コンパクトシティを実現するためには、自家用車に過度に頼ることなく、公共交通により医療・福祉施設や商業施設などにアクセスできるなど、今後のまちづくりと連携した交通ネットワークを形成する必要があります。また、公共交通の利便性を維持・向上させるため、公共交通の利用を促す必要があります。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



あらゆる世代に便利で、
持続可能な公共交通の実現へ



施策における取組

(1) 春バスのより便利で持続可能な運行の実現

◆鉄道や路線バスを補完し、各地域の日常生活を支援するため、「春バス」の利便性向上を図るとともに利用を促進し、持続可能な運行の実現に努めます。

(2) 各公共交通機関と連携した公共交通ネットワークの形成と利用促進

◆春日部駅付近における鉄道の高架化や、東武アーバンパークラインの春日部駅以東の複線化などの輸送力増強や利便性向上について、沿線市町と連携・協力し整備促進に努めます。

◆路線バスについては、利便性の高い路線設定や運行本数の確保など、サービスの充実に向けて関係機関に働きかけます。

◆春バスの運行とあわせて、他の公共交通機関と連携した施策を実施し、市内の公共交通ネットワークの強化を図ります。

◆民間企業と協働して市内公共交通のPRを実施し、利用促進を図ります。

(3) コンパクトシティの形成に資する公共交通の実現

◆拠点となる鉄道駅へのアクセス利便性の向上や、拠点間を結ぶバス路線の整備により、鉄道駅を中心とした利便性の高い公共交通ネットワークの形成を行います。

◆地域の公共交通については、交通事業者や地域の代表者などで組織する法定協議会「春日部市地域公共交通活性化協議会」において協議し、本市の公共交通の充実を推進していきます。

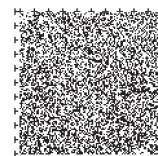
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
鉄道・バスの1日平均乗降客数	139,000人	139,000人	市内公共交通の利用者数より、公共交通の利便性を測る指標です。目標値は、人口減少や生活が多様化する中においても現状値を維持することを目指し設定します。
春バスの年間利用者数	92,800人	115,600人	春バスの年間の利用者数より、春バスの利用促進を測る指標です。目標値は、公費負担を考慮しながら、春バスが地域住民の日常生活を支える移動手段としてより多く利用されることを目指し設定します。

SDGs達成に向け市民・地域ができること

移動の際には、積極的に公共交通機関を利用し、環境負荷低減に貢献する。

関連計画

春日部市都市計画マスタープラン、春日部市立地適正化計画、春日部市地域公共交通計画、第四次春バス運行計画（2023年度（令和5年度）9月策定予定）



政策6-4 活力ある都市基盤を将来につなげるまちをつくる

施策6-4-1 安全で利便性の高い道路網の整備

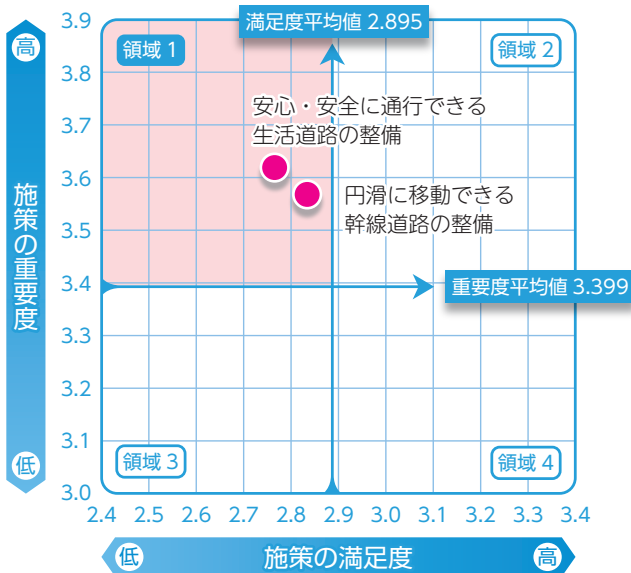
施策の目的

利用者が市内の道路を安心・安全かつ円滑に通行できるようにすること。

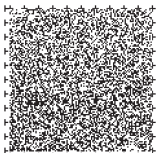
現状と課題

- ①都市機能の向上に必要な幹線道路の整備が求められる一方で、長期的に未整備になっている都市計画道路の再検討が必要です。また、国道・県道などの広域幹線道路については、庄和I.C.に接続される東埼玉道路や大場大枝線、上野長宮線の整備促進が求められています。
- ②道路が果たす役割はますます重要となっているため、市民生活に不可欠な生活道路を含め、防災性や安全性、快適性、ユニバーサルデザインなどに配慮した道路の整備が求められます。
- ③道路施設の老朽化に伴い維持管理に要する費用が増加しているため、効率的で持続可能な維持管理を行う必要があります。特に、通学路に指定された道路では、学校や警察などと連携し、児童生徒の安全確保に努める必要があります。また、遮断時間が長い踏切や幅員が狭い踏切など課題のある踏切についても、関係機関と連携し対策を講じる必要があります。
- ④本市の橋りょうは、近い将来、集中的に更新時期を迎えます。このため、中長期的な視点から、持続可能で計画的な維持管理が求められています。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



市役所通りの道路整備後の様子



施策における取組

(1) 都市計画道路や広域幹線道路（国道・県道）の整備

- ◆都市計画道路については、都市計画マスタープランや都市計画道路の検証・見直し方針に基づき、整備を推進します。武里内牧線および中央通り線については、早期完成を目指します。
- ◆東埼玉道路、大場大枝線、上野長宮線について、関係機関に対し早期完成を要望します。

(2) 幹線道路や生活道路の整備による都市機能の向上

- ◆緊急輸送、避難路等の機能を有する防災効果の高い道路空間や、ユニバーサルデザインの導入を図り、安全で快適な環境に配慮した道路空間を創出します。
- ◆主要な生活道路を中心に、道路の拡幅や新設改良を推進します。住宅密集地においては、水路用地を活用した避難通路の整備を促進し、災害に強い道路環境の整備に努めます。

(3) 安全で快適な道路環境の維持・促進

- ◆主要な道路については、予防保全型の計画的な維持管理を推進し、費用の縮減を図ります。また、事故防止と利便性の向上のため、迅速かつ適切な維持管理に努めます。
- ◆基準点や道路台帳の管理を充実するとともに、電子計算処理システムの整備に努めます。
- ◆通学路など安全確保の必要性が高い道路については、優先的に整備を推進します。
- ◆課題のある踏切については、関係機関等と調整を図り、地域の実情に応じた対策に努めます。

(4) 橋りょうの整備と長寿命化修繕の推進

- ◆橋りょうの整備については、社会状況の変化や周辺状況を踏まえ計画的な整備に努めます。
- ◆橋りょうの定期点検を実施し、予防的な修繕を行い、長寿命化・耐震化を推進します。

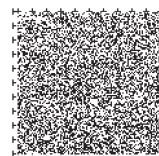
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
「安心安全に通行できる生活道路の整備」満足度スコア	2.765	現状値以上	市民意識調査より、市民の満足度を測る指標です。目標値は、満足度スコアを現状値以上にすることを目指し設定します。
補修が必要な橋りょう修繕率	0%	100%	橋りょうの定期点検により、補修が必要な橋の修繕の進捗率を測る指標です。目標値は、補修が必要となる全 25 橋のうち 5 年間で補修予定の 23 橋について、補修完了を目指し設定します。

SDGs 達成に向け市民・地域ができること

アダプトプログラムへの参加により快適で美しい道路環境づくりを推進する。

関連計画

春日部市都市インフラマネジメント道路計画、
春日部市橋りょう長寿命化修繕計画



政策6-4 活力ある都市基盤を将来につなげるまちをつくる

施策6-4-2 親しみのある公園の形成と緑化の推進

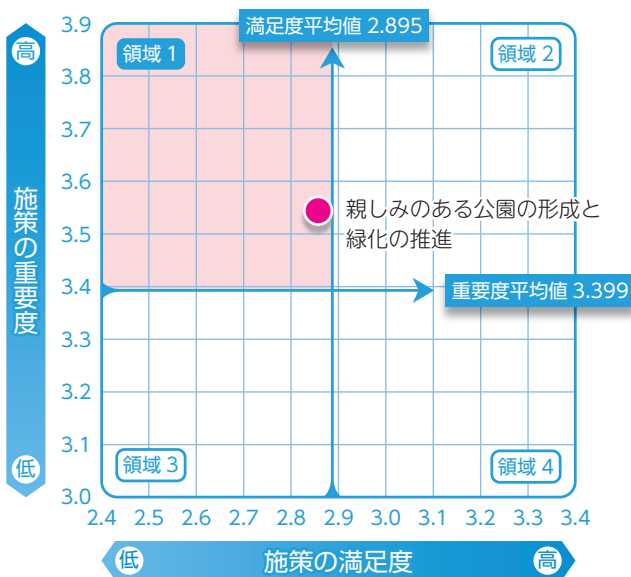
施策の目的

市民が、親しみのある緑豊かな生活環境の中で安らげること。

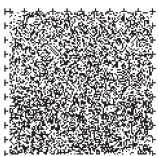
現状と課題

- ①公園、緑地、緑道は、コミュニティ活動やレクリエーション活動の場として市民生活にうおいを与えるとともに、災害時の避難場所としても重要な役割を担っています。本市では、「春日部市緑の基本計画」に基づき、市民と行政が一体となって緑地の保全や緑化を推進しています。今後も引き続き、企業・団体、市民による活動を支援し、緑化を促進する必要があります。
- ②本市の公園の整備状況は、2021年度（令和3年度）末で、都市公園が242か所、広場が138か所あり、市民一人当たりの公園面積（整備済公園・広場）は4.92㎡となっています。また、市立医療センターの建設により移転が計画されている中央町第1公園の整備が必要となっています。また、公園施設の老朽化が進んでおり、更新時期の集中を避けるため、「春日部市都市インフラマネジメント公園計画」に基づき、既存施設の有効活用や長寿命化を図るとともに、維持、改修、更新費用の軽減、平準化を図る必要があります。
- ③人口減少・少子高齢化が進展する中、利用者のニーズに即した、利用しやすく親しみある公園づくりが求められています。このため、公園の整備段階からの市民参加のみならず、市民との協働による維持管理を進める必要があります。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



親しみのある公園形成のイメージ



施策における取組

(1) 計画的な緑の保全・緑化の推進

- ◆緑豊かな貴重な自然空間として、田園地帯・台地・河川沿いにおける樹林地、市街地の大径木、社寺林および緑地の保全に努めます。
- ◆自然環境の残る緑地や、大落古利根川をはじめとする河川沿いを有効活用した、緑道や遊歩道などの水辺空間・緑地空間の保全に努めます。
- ◆公共施設の敷地内の緑化や、生産緑地の保全に努め、市街地における緑の保全・緑化の推進を図ります。

(2) 公園の整備と維持管理

- ◆中央町第1公園（市役所跡地）は中心市街地に整備される新たな公園として若い人等が集い、出会いや交流が生まれる魅力ある公園整備を目指し、だれもが集える公園としてユニバーサルデザインを取り入れるなど安心安全な空間を創出します。
- ◆親しみのある公園形成と緑化推進を目指し、地域住民の意見を取り入れながら公園をリニューアルしていきます。
- ◆公園施設の遊具・トイレ等について定期点検や改修・整備を行うとともに、美観や防犯の観点から、公園・緑地内の樹木や生垣などの適切な維持管理を推進します。

(3) 市民参加による公園づくりと緑化の推進

- ◆地域住民による自主管理やボランティアの活用など、市民との協働による管理体制づくりを進めます。
- ◆民有地における緑化を奨励し、市民と行政が一体となって緑化を推進します。また、保存樹木を指定し、その保全のための助成を行います。
- ◆児童による草花の種まきを推進し、自然への理解を深める機会を設けます。

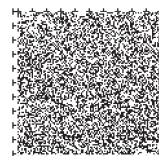
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
リニューアル公園の利用頻度の増加	45.4%	49.1%	公園リニューアルにより、利用頻度の増加率を測る指標です。目標値は、過去の増加率を参考に3.7ポイント増加することを目指し設定します。
地域住民による美化協定公園の増加	153公園	159公園	地域住民と美化協定を締結することにより、市民との協働による管理公園数を測る指標です。目標値は、市が管理している398公園の中で現状値より年1か所程度ずつ増加することを目指し設定します。

SDGs達成に向け市民・地域ができること

快適な公園や緑地空間を保つため、美化活動や維持管理活動に参加する。

関連計画

春日部市緑の基本計画、春日部市都市インフラマネジメント公園計画



政策6-4 活力ある都市基盤を将来につなげるまちをつくる

施策6-4-3 総合的な治水対策の推進

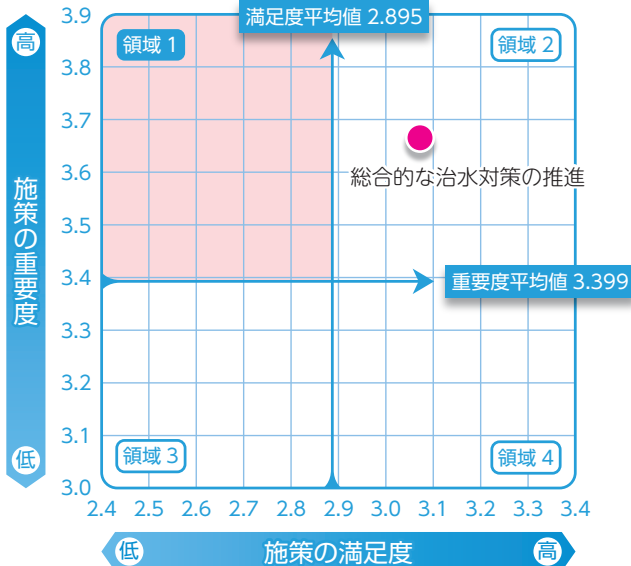
施策の目的

市民が安心して生活できるよう、浸水被害を軽減すること。

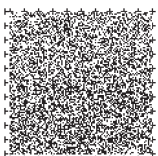
現状と課題

- ①令和元年東日本台風など、近年、大型化する台風や局地的な大雨による被害が全国的に生じています。このような大雨により内水被害が発生しており、雨水の保水・遊水機能の確保が必要です。
- ②国や県の管理する河川の整備に合わせて、100 mm/h 安心プランに位置づけている準用河川安之堀川など、市の管理する河川や水路、公共下水道（雨水）を整備し排水対策を進める必要があります。
- ③ポンプ場などの施設の多くは、昭和40年～50年代に整備されたことから、老朽化が顕著な施設も多く、近い将来、集中的に再整備する必要があります。このため設備の更新、長寿命化のための修繕、施設の耐震補強などを、計画的に行う必要があります。
- ④本市は、首都圏外郭放水路の完全通水により台風や局地的大雨による浸水被害が大幅に軽減されていますが、江戸川の堤防強化事業をはじめ、国・県管理の河川改修の整備を引き続き促進する必要があります。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



100 mm/h 安心プラン
(安之堀川護岸改修の様子)



施策における取組

(1) 流域対策の推進

- ◆洪水等に備え、水位監視体制を強化し、市公式ホームページなどを通じ、水害リスク情報を広く市民に発信します。
- ◆保水機能、遊水機能の保全と向上に努め、雨水の河川や水路への流出を抑制するため、開発行為などにおける敷地内浸透や、雨水の一時貯留施設を設置し、流域治水を推進します。

(2) 河川や水路等の整備、改修

- ◆100 mm/h 安心プランに位置づけている準用河川安之堀川の整備、谷原・大沼地区の雨水対策などを推進します。
- ◆100 mm/h 安心プラン以外の局所的な低平地における浸水被害の軽減のため、整備効果について十分な検証を行い、ポンプの設置や排水路等の整備を推進します。

(3) 河川施設等の適正な維持管理

- ◆「春日部市都市インフラマネジメント河川計画」に基づき、排水機場等の河川施設については、維持管理費の縮減と施設の長寿命化を図る計画的な維持管理を推進します。
- ◆「春日部市公共下水道ストックマネジメント基本計画」に基づき、ポンプ場等の河川施設については、設備の維持管理と、長寿命化のための修繕・改築、施設の耐震化などを推進します。

(4) 国・県管理の河川整備の促進

- ◆江戸川・利根川の堤防強化の促進をはじめ、国・県の管理する河川の整備を強く促すことにより、台風や集中豪雨などによる浸水被害の軽減を図ります。
- ◆県と連携し、冠水被害の低減を目的とした河川改修に伴う、橋りょうの整備を推進します。

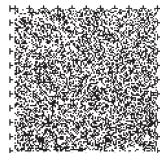
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
100 mm / h 安心プランで実施する事業における雨水処理量	6.44m ³ / s	11.44m ³ / s	雨水の排水能力を測る指標です。目標値は、備後西ポンプ場と準用河川安之堀川を整備することで、現状値より 5.0m ³ / s 増加することを目指し設定します。
雨水流出抑制施設の抑制量	113,944m ³	125,900m ³	雨水流出抑制施設を整備することにより、浸水被害軽減を測る指標です。目標値は、過去の実績により、年間 2,000m ³ 程度を整備することを目指し設定します。

SDGs 達成に向け市民・地域ができること

災害ハザードマップを確認することで、起こりうる災害を理解し、日頃から適切な備えをする。

関連計画

春日部市都市インフラマネジメント河川計画、
春日部市公共下水道ストックマネジメント基本計画、
春日部市下水道総合地震対策計画



政策6-5 安定した水供給と適切な水処理ができるまちをつくる

施策6-5-1 安全で安定した上下水道の充実

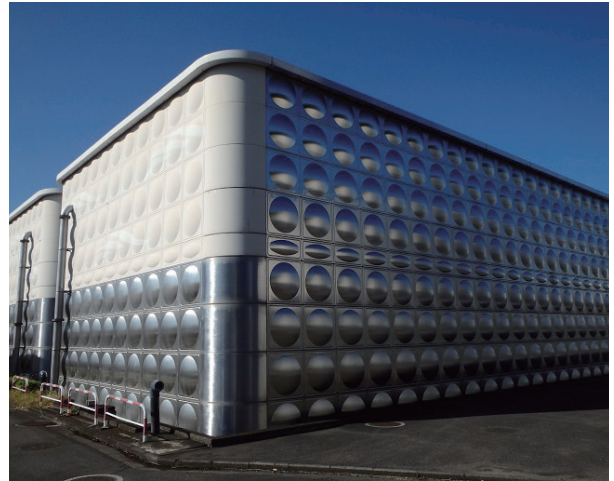
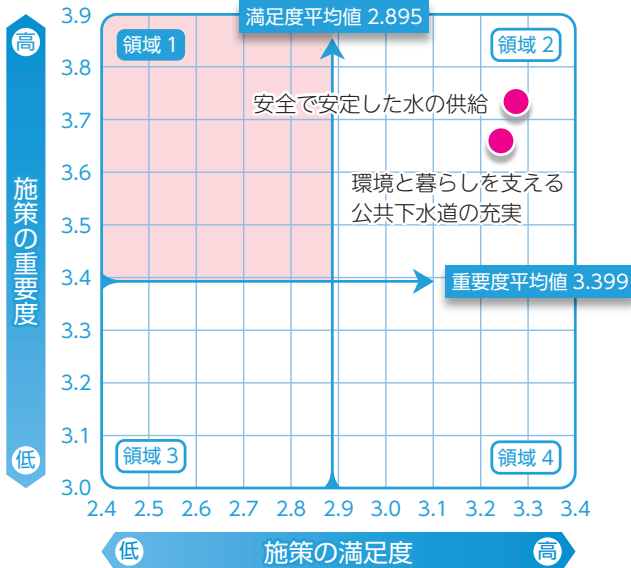
施策の目的

市民が安全で安定した水を利用でき、河川などの衛生環境が保全されるようにすること。

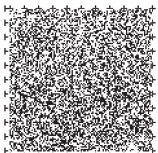
現状と課題

- ①本市の上水道は、1954年（昭和29年）に給水を開始して以来、安全で安定した水道水を市民に供給してきました。今後も時代や環境の変化に的確に対応し、計画的な維持管理などによって、将来にわたり安全で安定した水道水を市民に供給することが求められます。
- ②下水道は、市民の安全で快適な生活を確保し、衛生的な都市環境の保全、河川などの水質汚濁防止や浸水対策のために必要不可欠なインフラです。今後は市街化区域内における整備の早期完成を目指すほか、水洗化の促進や、施設の老朽化対策を踏まえた計画的な維持管理に努める必要があります。
- ③上水道・下水道は、市民生活などを支える重要なライフラインであることから、管や施設の耐震化を進めるなど、災害対策の充実を図る必要があります。
- ④上水道・下水道の事業を安定的に継続していくため、経営戦略に基づき、経営基盤の強化や財政マネジメントの向上などを推進する必要があります。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



北部浄水場（浜川戸）の配水池



施策における取組

(1) 安全で安定した水道水の供給

- ◆年間を通じて計画的に水質検査を実施し、安全な水道水を供給します。
- ◆将来人口を見据えつつ、老朽化の進んだ水道施設を計画的に更新し、水道水の安定供給を図ります。また、漏水防止対策を実施し、有収率の向上に努めます。

(2) 公共下水道の維持管理と接続の促進

- ◆土地区画整理事業や街路事業の進捗に合わせ、公共下水道の整備を計画的に推進し、市街化区域内の早期完成を図ります。
- ◆公共下水道未接続世帯に対し、水洗化への啓発を実施し、公共下水道の普及推進を図ります。
- ◆老朽化対策を踏まえた、管路の補強や改善、管きよ内の堆積物の調査や清掃などを計画的に実施します。また、ポンプ場における設備等の更新を計画的に実施します。

(3) 災害対策の充実

- ◆災害時における水道水を確保するため耐震性に優れた強靱な配水管網を構築していきます。
- ◆大規模地震時の液状化被害を最小限にするため、下水道施設の地震対策を推進します。

(4) 経営の健全化

- ◆将来にわたって安定的に事業を継続していくため、「春日部市新水道事業ビジョン（経営戦略）」に基づき、健全な経営を図っていきます。
- ◆下水道事業が安定的に継続できるよう「経営戦略」による計画的かつ合理的な経営を行い、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図ります。

成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
有収率	91.0%	93.5%	水道施設を通して供給される水量が、どの程度収益につながっているかを測る指標です。目標値は、現状値より、水道事業漏水防止計画で定めた 2.5 ポイント増加することを目指し設定します。
水洗化率	97.1%	97.7%	処理区域内世帯のうち、下水道に接続している世帯割合を測る指標です。目標値は、現状値より 0.6 ポイント増加することを目指し設定します。

SDGs 達成に向け市民・地域ができること

公共下水に接続することにより、公共衛生の向上と河川の水質保全に貢献する。

関連計画

春日部市新水道事業ビジョン（経営戦略）、春日部市下水道事業経営戦略、春日部市公共下水道ストックマネジメント基本計画、春日部市下水道総合地震対策計画

